

Excel VBA 開発環境の準備と使い方

Excel VBA は表計算ソフトウェア Excel に組み込まれたプログラミング言語（表計算マクロ）であるが、デフォルトでは使用できないため、後述の方法で使用できるように設定しておく必要がある。

なお、PC 教室のコンピュータの多くには、環境復元ソフトウェアが入っているため、新規ソフトウェアをインストールする場合や設定を変更する場合は、環境復元ソフトウェアを適切に操作する必要がある。PC 教室の定期点検時などを利用して、保守点検企業にインストール作業や設定の変更を依頼するとよい。

1. Excel-VBA を動作させるための準備

Excel VBA を動作させるためには、「開発」タブをリボンに表示しておく必要がある。

Excel を起動し、「ファイル」、「その他」、「オプション」、「リボンのユーザー設定」の順に選択し、「開発」にチェックを入れ「OK」をクリックする。



図1 Excelの開発タブ

「開発」タブを選択し、「コード」の中の「マクロセキュリティ」を選択し、「マクロの設定」カテゴリの中の「警告を表示してすべてのマクロを無効にする」を選択し、「OK」をクリックする。

2. プログラムの作成方法

「開発」タブを選択し、「コード」グループの中の「Visual Basic」を選択する。「Microsoft Visual Basic for Applications（Visual Basic Editor）」のウィンドウが開くので、「挿入」、「標準モジュール」を順に

選択すると、「Module1」という名前のコードウィンドウが開くので、その中にプログラムを記述する。「Sub プログラム名()」と「End Sub」の間にメインプログラムを入力する。ユーザ定義関数は「Function 関数名()」と「End Function」の間に入力する。

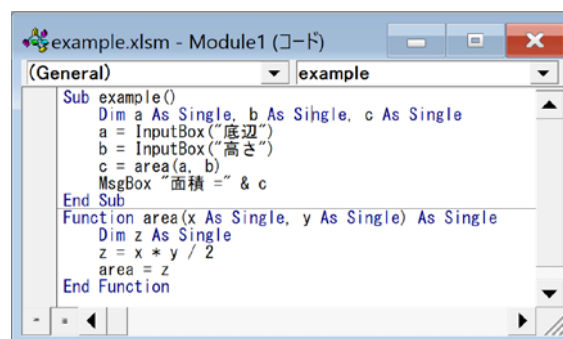


図2 コードウィンドウ

3. 作成したプログラムの保存

「Visual Basic Editor」が開いている場合はそれを閉じ、「ファイル」、「名前を付けて保存」、「参照」の順に選択する。ファイル名を入力し、「ファイルの種類」から「Excel マクロ有効ブック (*.xlsm)」を選択し、保存場所を指定してから「保存」をクリックすると「ファイル名.xlsm」が保存される。

4. プログラムの実行

保存した「ファイル名.xlsm」をダブルクリックし、「セキュリティの警告」が表示される場合は「コンテンツの有効化」のボタンをクリックする。

「開発」タブを選択し、「コード」グループの中の「マクロ」を選択する。マクロ名（プログラム名）を選択し「実行」をクリックする。

なお、マクロ名は「Sub プログラム名()」と「End Sub」の間に入力したプログラムのプログラム名になる。